

令和6年度市民提案協働事業 事業報告書

事業名 おそきっこ里山プレイパーク&青空子ども食堂



- 1 実施団体 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん
- 2 担当課 子育て応援課
- 3 実施時期 2024年12月26日・27日・1月7日・3月26日・27日
- 4 参加者 122名
- 5 実施場所 青梅富岡里山ワンダーランド（青梅市富岡1丁目152番地）
- 6 事業の目的 遊びと食の環境を地域で支えることで「この地域で育ってよかった」と思える故郷をこどもたちの心に刻み、地域への愛着を育むことを目的とする。
- 7 役割分担
 - ・ 団体の役割
企画および運営
 - ・ 担当課の役割

ア 広報活動

イ 事業を市内全域に拡大していくための助言および協力

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

小曾木地域の子どもたちが、地域の子どもが少なくかつ共働き世代が増えたため、学校や学童の中でしか集まって遊ぶ機会がなく、学校や学童内では、外遊び環境としては校庭しか選択肢がなく、もっと生き物や自然の豊かな地域なのに、その中でこども同士がのびのびと遊べる場がないことを地域の大人として、保護者として課題に感じていました。

今回、自然の中で遊び、食事をすることで特色ある事業を展開できました。小学生に人気だったのは「川のサバイバル」で、沢沿いを自分たちで探検しながら下っていました。保育園児たちも切り倒してある竹を自分たちで川に橋を作りたい！と自分たちで運んで仕立てて遊びを作り出していました。こどもたちの感想からも、これからの「青梅ならではのこども環境」のひとつの事業として効果があると考えます。

9 目標達成

事業の目標：

目標人数 300名

（参加者50名・ボランティア10名 計60×5日間）

アンケートで下記の項目について参加者の7割以上が5段階で3以上の回答がある ・参加者・ボランティアの満足度・また来たいと思うか

目標の達成具合：

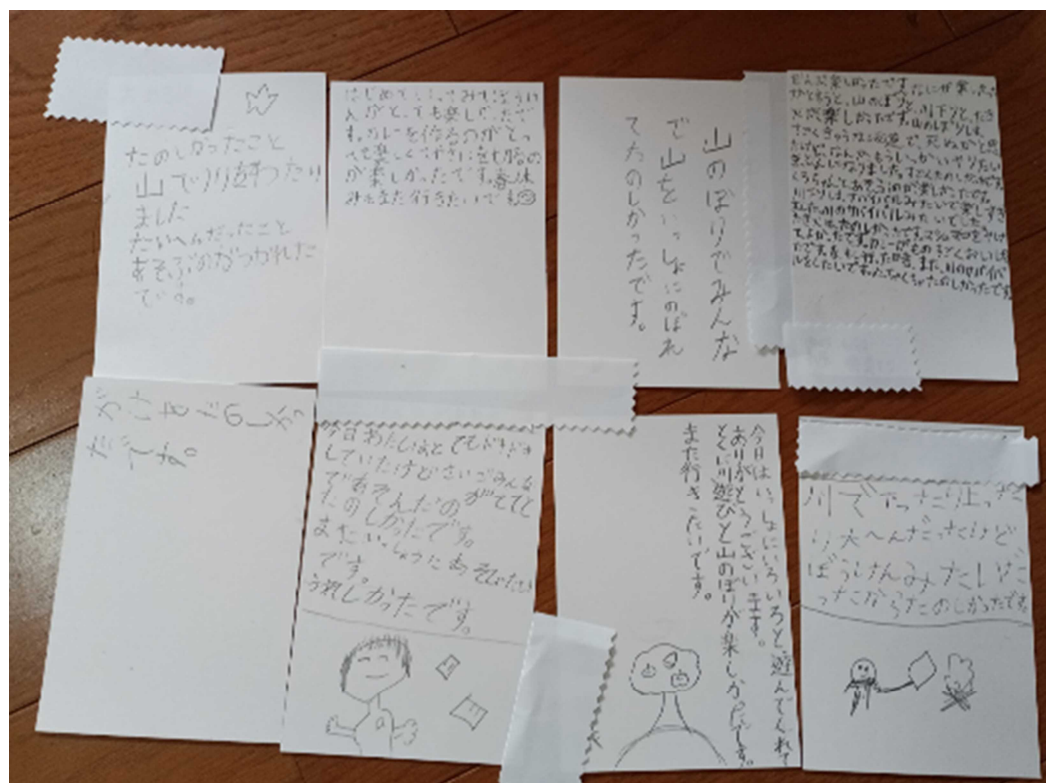
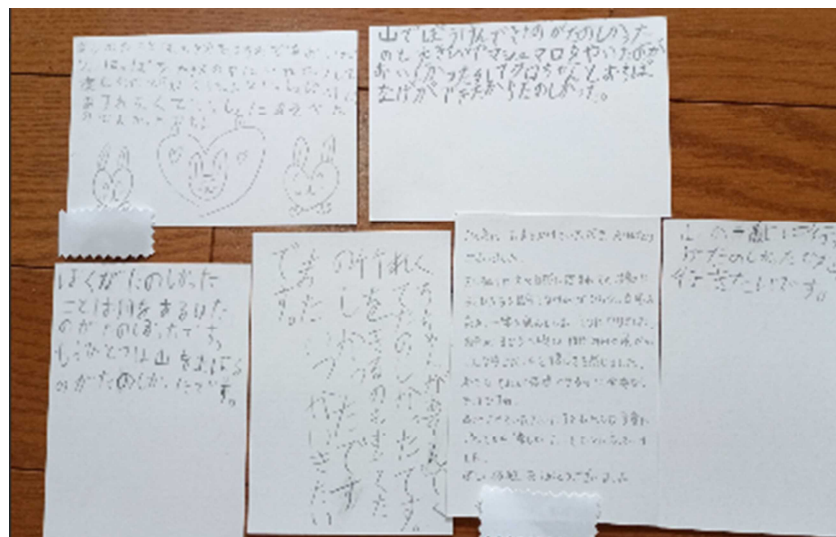
参加人数 122名 人数については未達であった

地域のこどもたちを中心に参加してもらいたく声をかけたが、冬休みは年末年始ということもあり参加者数が少なかった。春休みは小学生・幼児ともに参加があり、春休みのほうが人数が集まるということが分かった。

アンケート 参加してくれた子どもたちからは非常に好評で、下記のような回答を得られた。おそき地区に住むこどもたちがみんなで山で冒険できる機会はなかなかないので、長期休みの体験として機会提供でき

たことは子どもたちにとっても貴重な経験となったのではと感じました。

また、成木地区や、練馬区からも視察に来場がありました。里山でおこなうプレイパークは、街中で行うものと異なり、自然体験活動の一環として体験格差の解消にもなり、青梅ならではのこども環境として重要ではないかと思われます。



10 事業の実施内容

(1) 対象 青梅市内の子ども・保護者 ・ 青梅市内の地域ボランティア

(2) 事業実施日

12/26 木曜 12/27 金曜 1/7 火曜 3/26 水曜 3/27 木曜

(3) 参加費 無料

(4) プログラム

9:00 準備・打ち合わせ

10:00 開場、最寄バス停にてお迎え

10:30 ごろ 朝の会（自己紹介タイム・注意事項などの声掛け）

各コーナーあそび

12:00 お昼ご飯 山へ冒険へ

13:30 終わりの会：今日楽しかったことは、ななに？アンケート記入

最寄バス停にてお見送り

14:00 閉場、片付け、スタッフ振り返り

15:00 スタッフ解散







11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4

(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

参加人数については想定よりは未達だったが、体制や会場の様子からも、市内から広く募集するよりも、地区内の小学生や乳幼児に限定して活動するほうが良いのではと考えられました。

今回の実施で地域での認知が少しずつ広がってきたので、引き続き地域の応援を得ながら事業として継続実施していきたいと思います。運営については、こども食堂部分は市の補助金なども検討しながら継続していきたいと思います。

加えてぜひ青梅市には、「里山プレイパーク」についても市の補助等をご検討いただければと思います。今回、成木地区や、練馬区からも視察の来場がありました。里山でおこなうプレイパークは、街中で行うものとは異なり、自然体験活動の一環として体験格差の解消にもなり、青梅ならではのこども環境として重要です。市内のほかの活動団体とも連携しながら、市への働きかけを行っていったらと思っています。ぜひご検討宜しくお願い致します。

・担当課側

122名と多くの方に参加いただいたが、目標の参加者数に達しなかった。市として周知の方法や実施内容への助言については今後検討や協議を重ねていく必要がある。

自然の中で遊び、食事をすることで特色ある事業を展開できた。

今後青梅市のプレイパーク事業を検討していく上で、青梅市で行った事業の貴重な事例として、活かしていく必要がある。

13 その他